

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	算 数
-----	-----

発行者	総合的な所見
東 書	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①単元初めに、児童同士の対話によって目標を設定するようになっている。また、学習の最後に、次の学習につながる疑問が示されており、今後の学習の見通しがもてるようになっている。</p> <p>②単元末に適用問題が設定されており、「算数の目」では、その単元に関わる「見方・考え方」を使うようになっている。タブレットを使用して問題を解くことができ、答え合わせや考え方も提示されるようになっている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①問題場面を表す場合に、言葉と式で説明がしてあり、論理的な思考の流れが分かりやすくなっている。</p> <p>②「今日のふかい学び」としてマイノートを学習に生かそうとまとめてあり、問題を解決していく自分の思考を振り返ることができるようになっている。また、その考えの視点も示されている。</p> <p>③「考える力をのぼそう」の単元で、多様な考え方ができるような内容になっている。また、「学んだことを使おう」の単元では、学習したことをさらに深めていくことができる内容になっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①第2学年以上の巻末に単元末と類似する補充の問題を設定し、基本的な内容と少し発展的な内容の難易度別の構成になっている。単元のまとめとして、練習問題、補充問題、追加問題（デジタル版）が設定されている。</p> <p>②第6学年のまとめの後に「できるようになったこと」「次に考えてみたいこと」があり、その中で中学校との関連が書かれている。また、全単元後の「卒業旅行」の中で、中学校と関連のある内容に触れられている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①実物の写真を使用し、実生活との関連が意識しやすくなっている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>①「今日の深い学び」を設定し、学習過程とともに側注として「数学的な見方・考え方」など話し合い活動を進めるためのヒントが書かれて</p>

	<p>いる。それをもとに説明の活動が展開できるようになっている。</p> <p>②「算数マイノートをつくろう」「算数マイノートを学習に生かそう」では、ノートの書き方のポイント、順序を例に挙げて紹介されている。第1学年からノート例の紹介がある。</p>
大日本	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①児童にとって身近に感じる日常場面を取り上げて疑問を引き出し、めあてを設定するようになっている。学習の最後に振り返りの視点の記述があり、児童への支援となっている。</p> <p>②単元末の練習問題の中に「見方・考え方をたしかめよう」の問題があり、その単元での見方・考え方を活用して解決できる問題が設定されている。単元後に「学習のサポート」があり、単元を振り返りたいときに見る動画がある。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①日常生活の中にある問題場面を取り上げており、児童が意欲的に学習できる内容になっている。また、実際の写真を取り上げており、考え進めていくことができるようになっている。</p> <p>②「見方・考え方をたしかめよう」の中で、学習したことを元に、新しい学習を進めていくことができるようになっている。大切な見方・考え方を振り返ることにより、自分で考え進めていくようになっている。</p> <p>③第3学年「算数たまたまばこ」では、一日の場面がストーリー仕立てで示されており、計算場面に立ち止まって考えることができるようになっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①第2～6学年は全1巻で構成され、単元の前後のつながりや、他学年とのつながりが目次や特設ページの中で明示されている。巻末問題の解答はQRコードによってインターネット上で見られるようになっている。</p> <p>②第6学年のまとめの問題では、中学校と関わる内容については「中学への準備」と明記されている。また、「数学の世界へ」の中で中学校と関連のある内容の問題が取り扱われている。さらに「中学校の数学ではこんなことを学ぶよ」も掲載されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①イラストや写真は、問題の意味を理解させるために身近なものが扱われている。また、具体物から抽象へと表現方法が段階的に提示されている。</p>

	<p><b>第5の観点</b></p> <p>①「算数の学び方」を設定し、学習の流れが示されている。考え方の図が示されている。また教科書の巻頭に「となりどうしで」「グループで」「クラスで」と場面に応じた話し合いの方法が示されている。</p> <p>②「算数まなびナビ」では、ノートの手書きのポイントが例とともに紹介されている。第1学年からノート例の紹介がある。振り返りの中に、次に考えてみたいことが例示されている。</p>
学 図	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①日常生活場面からめあてが設定されている。学習の最後に、次の学習につながる疑問が示されており、今後の学習の見通しがもてるようになっている。</p> <p>②練習問題も単元末問題も充実している。単元末には、基礎問題、発展問題が設定されている。振り返りのページでは、その単元で大切な「見方・考え方」を改めて提示し、児童が問題解決できるように設定されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①「式と計算」では生活場面を取り上げており、自らの経験と関連付けやすくなっている。また、漫画による展開で、問題場面をイメージしやすくなっている。</p> <p>②「考えモンスターでふりかえろう」では、既習の図形に変形させることで、いろいろな図形の面積を求めていくことができるようにしている。</p> <p>③「なるほど算数」では、身近なマークは線対称や点対称を用いて作られているものもあることに気付かせ、日常生活との関連を振り返ることができるようになっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①巻末は、基本的な内容の定着が図れるような補充問題と発展的な問題で構成されている。理解が困難な内容については単元を分割し、さらに指導学期を分けて定着が図れるようになっている。</p> <p>②「もっと算数」の補充問題の9「円の面積をふかめよう」で、中学校の学習とのつながりが明記されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①単元の導入は、日常生活と関連する場面が設定されているとともに、イメージしやすいようなイラストが表示されている。また、1単位時間の学習のまとめが分かりやすく示されている。</p> <p><b>第5の観点</b></p>

	<p>①「みんなと学ぼう 算数の学び方」という巻頭ページで「考えたいな」「表したいな」「知りたいな」「調べたいな」という学習の流れが示されており、それにそって設問がある。</p> <p>②「考えるノート」「まとめるノート」では、ノートの書き方のポイントが説明されている。「まとめるノート」は、下巻では図を使って説明するためのノートの工夫が例示されている。</p>
<p>教 出</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①日常生活の場面を取り上げ、めあてが設定されている。学習の終末には、次の学習につながる疑問が示されており、今後の学習の見通しがもてるようになっている。</p> <p>②単元末に「ふりかえろう」「たしかめよう」が設定され、単元での見方・考え方を振り返ってから問題に向かうようになっている。問題量も充実している。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①「買い方を式に表そう」では、2つの店での品物の買い物をした場合での問題場面を取り上げ、比較により答えは同じでも式の表し方が違うことを捉えることができるようにしている。</p> <p>②「学習の手引」の中では、「友だちのノートを見てみよう」（友だちのノートの書き方のいいところを見つけよう）として、視点を明確にして自ら考え進めていくことができるようになっている。</p> <p>③「算数ワールド」では、模造紙に書いた原図を拡大図にするために、計算や対応する点の取り方ができるようになっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①他教科や学校の活動と関連した題材を扱い、必要感を感じられるようになっている。複数単元・領域のまとまりごとにレディネス問題や復習問題が設定されている。</p> <p>②第6学年のまとめの後の「数学のとびら」の中で中学校の学習に関する内容を扱い、「つづきは中学校で…」の中に中学校で学ぶことが触れられている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①作業的・体験的な活動の場面では、写真を用いて活動内容を想像しやすくしている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>①「学習の進め方」を設定し、説明し合うための学習過程が示されている。いくつかの考え方を例示し、図から式、式から考え方へなど多様な考え方ができ、説明する活動が展開できるようになっている。</p>

	<p>②「友だちのノートを見てみよう」では、ノートの書き方のポイントが例示されている。友達の考えからの気づきの記入例が示されている。</p>
<p>啓林館</p>	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①導入時に、児童にとって身近に感じる日常生活場面を示し、単元全体のめあてが設定されている。</p> <p>②単元末に「れんしゅう」「学びのまとめ」「ふくしゅう」が設定されており、易しい問題から難しい問題に挑戦できるようになっている。単元末の問題では、タブレットが使用できるようになっている。巻末の学びのサポートで単元前の準備問題が設定されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①「これからの学習のめあて」が示してあり、問題意識をもって立式したり計算の順序を考えたりすることができるようになっている。</p> <p>②「台形の面積」の求め方について、3通りの異なる解決方法を「分ける・2つに合わせる・変形」の言葉で整理し、考えの道筋が分かりやすくなるように示されている。</p> <p>③「学びを生かそう」では、切り上げや切り捨てを使って考えたり、見積もりの工夫を考えたりすることができるようになっている。また、言葉と計算でどのように見積もったのかが説明できるようになっている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①新しい演算を学習した後に、適切な演算を決定し根拠を説明する活用単元が設定されている。巻中に学期末に取り組む復習問題、巻末に単元前に行う準備問題と復習問題が用意されている。</p> <p>②第6学年の各領域のまとめの最後に、「数学のとびら」があり、中学校との内容の関連について触れられている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①操作活動では、写真が用いられているので活動内容を想像しやすく、学習意欲を高めることができるようになっている。デジタルコンテンツでは、アニメーションに加え、誤答の多い問題も扱われている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>①「学習の進め方」を設定し、それに沿った設問がある。また、巻頭に「みんなで話し合おう」「算数で使いたい考えの進め方」が示されている。</p> <p>②第2学年からノート指導についての記載がある。巻頭に「算数ノートをつくろう」のページがある。</p>
<p>日 文</p>	<p><b>第1の観点</b></p>

- ①日常生活の場面からの疑問を踏まえ、めあてが設定されている。
- ②単元末には、基礎的な問題とその単元の見方・考え方を使って解決する問題が用意されている。単元前には、その単元に関わる既習事項を扱うページが設定されており、スムーズに導入できるようになっている。

#### 第2の観点

- ①テープ図を使って長さを書き込んだり、長さを写しとったりして比べる方法を考えていくことができるようになっている。
- ②「自分で みんなで」では、「見方・考え方」で、課題解決の流れを示したり、「学び合おう」で、学び合いの視点を示したりすることにより、どのような工夫をしているのかを説明できるようになっている。
- ③「算数ジャンプ」では、他教科との関連を示し、知りたい数量を計算で求めることができるようになっている。

#### 第3の観点

- ①低学年では、単元を分散的に構成し、同じ内容が長い期間続かないように配列されている。高学年では、関連する内容をまとめた配列になっている。各学年で、習熟に時間を要する内容は、早期に学習するようになっている。
- ②第6学年のまとめの後の「マテマランドを探検しよう！」の中で中学校の学習内容との関連が触れられている。中学校と関連する内容を扱うときは、「中学校へつながる学習」というマークが付いている。

#### 第4の観点

- ①実物の写真を使用しているため、学びと日常生活を関連させやすくなっている。また、1単位時間の学習のまとめが分かりやすく示されている。

#### 第5の観点

- ①「学び方ガイド」を設定し、説明し合うための学習過程が示されている。折り込みページに、考え方の視点が示されており、それを使って説明する活動が展開できるようになっている。
- ②1年生から「さんすうノートをつくろう」を設け、ノートをまとめることの意義や、書き方の例を示している。